

「二木立の医療経済・政策学関連ニュースレター」

2016年総目次（1138号～149号。全12号配信）

138号：2016.1.1(13頁)

138号の目次は以下の通りです（13頁）

1. 論文：財政審「建議」の医療・社会保障費抑制要求とKPIの危険性
（「二木学長の医療時評」（134）『文化連情報』2016年1月号（454号）：20-26頁）
2. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
（通算118回。2015年分その9：5論文）
3. 私の好きな名言・警句の紹介（その133）－最近知った名言・警句

139号：2016.2.1(11頁)

1. 論文：厚労相の私的懇談会提言「保健医療2035」をどう読むか？
（「深層を読む・真相を解く」（50）『日本医事新報』2016年1月16日号（4786号）：10-11頁）
2. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
（通算119回。2015年分その10：7論文）
3. 私の好きな名言・警句の紹介（その134）－最近知った名言・警句

140号：2016.3.1(18頁)

1. 論文：『医療イノベーションの本質をどう読むか？－日本にはまったく適用できない
（「深層を読む・真相を解く」（51）『日本医事新報』2016年2月13日号（4790号）：15-16頁）
2. 論文：「保健医療2035」を複眼的に読む－「パラダイムシフト」の幻想
（「二木学長の医療時評」（135）『文化連情報』2016年3月号（456号）：14-20頁）
3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
（通算120回。2015年分その11：7論文）
4. 私の好きな名言・警句の紹介（その135）－最近知った名言・警句

141号：2016.4.1(21頁＋別ファイル)

1. 論文：地域包括ケアシステムから「全世代・全対象型地域包括支援」へ
（「二木学長の医療時評」（136）『文化連情報』2016年4月号（457号）：16-22頁）
 2. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
（通算121回。2016年分その1：6論文）
 3. 私の好きな名言・警句の紹介（その136）－最近知った名言・警句
 4. 大学院「入院」生のための論文の書き方・研究方法論等の私的推薦図書（2016年度版, ver. 18）（別ファイル:16院本推薦二木.doc）
- 参考1：日本福祉大学2015年度学位授与式・学長式辞（2016年3月19日）

(日本福祉大学ホームページ：学園・大学案内→大学概要→学長メッセージ→2015年度)

参考2：日本福祉大学2016年度入学式・学長式辞(2016年4月1日)

(日本福祉大学ホームページ：学園・大学案内→大学概要→学長メッセージ→2016年度)

142号：2016.5.1(17頁)

1. 論文：改めて、2025年に「必要病床数」は大幅減少するか？

(「二木学長の医療時評」(137)『文化連情報』2016年5月号(458号)：18-22頁)

2. 書評：空閑浩人『ソーシャルワークにおける「生活場モデル」の構築—日本人の生活・文化に根ざした社会福祉援助』ミネルヴァ書房,2014年10日,6000円+税

(『地域福祉研究(日本生命済生会)』公44号：163-164頁,2016年3月31日)

3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文

(通算122回. 2016年分その2：6論文)

4. 私の好きな名言・警句の紹介(その137)—最近知った名言・警句

参考：巻頭言 2017年の3団体統合・「ソ教連」発足へ大きく前進した1年(「学校連盟通信」(日本社会福祉士教育学校連盟)第69号：1-2頁,2016年3月31日)

http://www.jassw.jp/data_room/index.html

143号：2016.6.1(16頁)

1. 論文：2016年度診療報酬改定の狙いとその実現可能性・妥当性を考える

(「二木学長の医療時評」(138)『文化連情報』2016年6月号(459号)：20-27頁)

2. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文

(通算123回. 2016年分その3：5論文)

3. 私の好きな名言・警句の紹介(その138)—最近知った名言・警句

144号：2016.7.1(12頁)

1. 論文：「地域包括ケア研究会2015年度報告書」を複眼的に読む

(「二木学長の医療時評」(139)『文化連情報』2016年7月号(460号)：18-23頁)

2. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文

(通算124回. 2016年分その4：5論文)

3. 私の好きな名言・警句の紹介(その139)—最近知った名言・警句

145号：2016.8.1(18頁+論文の表PDF)

1. 論文：國頭医師のオブジーボ亡国論を複眼的に評価する—技術進歩と国民皆保険制度は両立可能

(「二木学長の医療時評」(140)『文化連情報』2016年8月号(461号)：18-26頁)

2. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文

(通算125回. 2016年分その5：5論文)

3. 私の好きな名言・警句の紹介(その140)—最近知った名言・警句

参考：日本福祉大学名誉教授・秦安雄先生を偲ぶ会・挨拶(2016年7月31日)

146号 : 2016.9.1(22 頁)

1. 論文：私の医療政策の分析・予測の視点と方法－第 57 回日本社会医学学会総会特別講演より
(「二木教授の医療時評 (141)」『文化連情報』2016 年 9 月号 (462 号) : 18-23 頁)
2. 論文：地域包括ケアシステムと地域医療構想－医療経済・政策学の視点から
(『公衆衛生』2016 年 8 月号 (80 巻 8 号) : 562-566 頁)。
3. 書評：早川一光＋立岩真也＋西沢いづみ『わらじ医者の来た道－民主的医療現代史』(青土社, 2015 年 8 月)
(『保健医療社会学論集』27 巻 1 号 : 118-119, 2016 年 7 月 31 日)
4. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
(通算 126 回. 2016 年分その 6 : 6 論文)
5. 私の好きな名言・警句の紹介 (その 141) －最近知った名言・警句

147号 : 2016.10.1(22 頁)

1. 論文：「ニッポン一億総活躍プラン」と「地域共生社会実現本部」資料を複眼的に読む
(「二木教授の医療時評 (142)」『文化連情報』2016 年 10 月号 (463 号) : 18-23 頁)
2. 講演録：「新福祉ビジョン」と「一億総活躍プラン」・「『我が事・丸ごと』地域共生社会実現本部」資料を複眼的に読む－福祉拡大の好機だがソーシャルワーカーには危機になりうる、それを克服する道は？
(9 月 17 日に東洋大学で開催された、ソーシャルケアサービス従事者研究協議会 (SCS) 主催「我が事丸ごと地域共生社会」をめぐる 9・17 緊急討論集会での「問題提起」。日本社会福祉教育学校連盟のウェブサイトにて 9 月 20 日全文公開 : <http://www.jassw.jp>)
3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
(通算 127 回. 2016 年分その 7 : 7 論文)
4. 私の好きな名言・警句の紹介 (その 142) －最近知った名言・警句

148号 : 2016.11.1 (13 頁)

1. 論文：公正取引委員会の「混合介護の弾力化」提案の背景・意味と実現 (不) 可能性を考える－混合診療解禁論との異同にも触れながら
(「二木学長の医療時評 (143)」『文化連情報』2016 年 11 月号 (464 号) : 18-22 頁)
2. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
(通算 128 回. 2016 年分その 8 : 7 論文)
3. 私の好きな名言・警句の紹介 (その 143) －最近知った名言・警句

149号 : 2016.12.11 (14 頁＋別ファイル (14 頁))

1. 論文：『平成 28 年版厚生労働白書』をどう読むか？
(「深層を読む・真相を解く (58)」『日本医事新報』2016 年 12 月 10 日号 (4833 号) : 20-21 頁)
2. 学会発言：高島進先生の社会福祉研究から引き継ぐべきでない 2 つのもの

(2016年11月19日に日本福祉大学名古屋キャンパスで開かれた日本社会福祉学会中部地域ブロック部会2016年度秋季研究例会「高島進先生から何を学び引き継ぐかー社会福祉研究の課題ー」での発言)

3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文

(通算129回. 2016年分その9:7論文)

4. 私の好きな名言・警句の紹介(その144)ー最近知った名言・警句

補. 「ニューズレター」2016年総目次(138~149号。全12号。医療経済・政策学関連の洋書・英語論文の目次、名言・警句の人名索引付き) (別ファイル:16二木NL目次.doc)

「二木立の医療経済・政策学関連ニュースレター」2016(138～149号)

最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文・目次

合計 73 論文 (累計 831 論文)

138号(2016.1.1)(通算118回. 2015年分その9:5論文)

○ [イギリスの] NICEの [医療技術評価についての] 意思決定における費用対効果やそれ以外の要因の影響

Dakin H, et al: The influence of cost-effectiveness and other factors on NICE decisions. Health Economics 24(10):1256-1271,2015. [政策研究・量的研究]

○ スウェーデンにおける医薬品償還の意思決定：疾病の重症度と費用対効果のインパクト

Svensson M, et al: Reimbursement decisions for pharmaceuticals in Sweden: The impact of disease severity and cost effectiveness. Pharmacoeconomics 33(11):1229-1236,2015. [政策研究・量的研究]

○ 1 質調整生存年 (QALY) に対する支払い意志：実証研究の文献レビュー

Ryen L, et al: The willingness to pay for a quality adjusted life year: A review of the empirical literature. Health Economics 24(10):1289-1301,2015. [文献レビュー]

○ アメリカにおける費用効果分析の使用に対する異議：「アメリカ医療でも費用効果分析を用いる時代が到来したか？」 [という言説] についての検討

Gusmano MK: Objections to the use of cost-effectiveness analysis in the US: Reflecting on "Has the time come for cost-effectiveness analysis in US health care?" Health Economics, Policy and Law 10(4):419-424,2015. [評論]

○ 新しい [医療] 専門職の役割の費用と効果：文献レビューで得られたエビデンス

Tsiachristas A, et al: Costs and effects of new professional roles: Evidence from a literature review. Health Policy 119:1176-1187,2015. [文献レビュー]

139号(2016.2.1)(通算119回. 2015年分その10:7論文)

○ リーン・ヘルスケア：包括的文献レビュー

D'Andreamatteo A, et al: Lean in healthcare: A comprehensive review. Health Policy 119(9):1197-1209,2015. [文献レビュー]

○ アメリカの病院の退院データを用いた専門職料金比

Peterson C, et al: Professional fee ratios for US hospital discharge data. Medical Care 53(10):840-849,2015. [量的研究]

○ オランダの1994～2010年の年齢・疾患別入院医療費の趨勢

Wubulihassimu P, et al: Trends in Dutch hospital spending by age and disease 1994-2010. Health Policy 119(3):316-323,2015. [量的研究]

○ [アメリカの2011年の] 年齢・サービス別の1人当たりメディケア医療費：最高齢被保険者にハイライトを当てた最新データ

Neuman P, et al: Medicare per capita spending by age and service: New data highlights oldest

beneficiaries. Health Affairs 34 (2):335-339,2015. [調査報告]

○10 か国のプライマリケア医が複雑な医療ニーズをもつ患者の診療の課題について報告する

Osborn R, et al: Primary care physicians in ten countries report challenges caring for patients with complex health needs. Health Affairs 34 (12):2104-2112,2015. [国際比較研究]

○ [EU加盟国で] 強力なプライマリケア制度のある国に住むことは慢性疾患を持つ人々に益がある

Hansen J, et al: Living in a country with a strong health care system is beneficial to people with chronic conditions. Health Affairs 34 (9):1531-1537,2015. [国際比較研究]

○ グラウンデッド・セオリーの方法を医療経験を把握し分析するために用いる

Foley G, et al: Using grounded theory method to capture and analyze health care experiences. Health Services Research 50 (4):1195-1210,2010. [解説論文]

140号(2016.3.1)(通算120回. 2015年分その11:7論文)

○ [アメリカの] 65歳以上のメディケア加入者の1999-2013年の死亡、入院と費用

Krumholz HM, et al: Mortality, hospitalizations, and expenditures for the Medicare population aged 65 years or older, 1993-2013. JAMA 314 (5):355-365,2015. [調査研究]

○ 一般市民の終末期選好：日本の全国調査の結果

Kissane LA, et al: End-of-life preferences of the general public: Results from a Japanese national survey. Health Policy 119 (11):1472-1481,2015. [量的研究]

○ [アメリカ・ニューヨーク州] ロチェスター・メディカルホームモデル事業がプライマリケアの診療、質、利用と費用に与える影響

Rosenthal MB, et al: Impact of the Rochester Medical Home Initiative on primary care practices, quality, utilization, and costs. Medical Care 53 (11):967-973,2015. [混合研究]

○34 か国におけるプライマリケアの [専門職] 構成

Groenewegen P, et al: Primary care practice composition in 34 countries. Health Policy 119 (12):1576-1583, 2015. [国際比較研究・量的研究]

○ [病院の] 認証と医療のプロセス面での質の改善： [デンマークでの] 全国調査

Bogh SB, et al: Accreditation and improvement in process quality of care: a nationwide study. International Journal for Quality in Health Care 27 (5):336-343,2015. [量的研究]

○ [アメリカの] メディケア・アドバンテッジ質に応じた支払いプログラムの割り増しインセンティブ支払いは質を改善しなかったが保険が提供するメニューを増やした

Layton TJ, et al: Higher incentive payments in Medicare Advantage's pay-for-performance program did not improve quality but did increase plan offering. Health Services Research 50 (6):1810-1828,2015. [量的研究]

○ ヨーロッパ [7か国]、アメリカ、カナダ、ニュージーランドおよびオーストラリアにおける医師から看護師へのより進んだ役割の業務シフトの導入におけるガバナンスの役割

Maier CB: The role of governance in implementing task-shifting from physicians to nurses in advanced roles in Europe, U.S., Canada, New Zealand and Australia. Health Policy 119 (12):1627-1635,2015. [国際比較研究]

141号(2016.4.1)(通算121回, 2016年分その1:6論文)

○ [65歳以上の] がん死亡患者の死亡場所、医療利用、入院医療費の7か国比較

Bekelman JE, et al: Comparison of site of death, health care utilization, and hospital expenditures for patients dying with cancer in 7 developed countries. JAMA 315(3):272-283,2016. [国際比較研究・量的研究]

○ [アメリカの] ACOと高額医療費患者

Powers BW, et al: ACOs and high-cost patients. NEJM 374(3):203-205,2016. [評論・調査報告]

○ [アメリカの] 新しいデータソース(「医療サテライト勘定」)によると医療費の2000~2010年の伸び率低下は1人当たり医療費の伸び率低下が主導した

Dunn A, et al: Health care spending slowdown from 2000 to 2010 was driven by lower growth in cost per case, according to a new data source. Health Affairs 35(1):132-140,2016. [調査報告]

○ [アメリカにおける] 医療提供組織の改革は[医療の]価値を増大させるか?結論はまだ出ていない

Korenstein D, et al: Do health care delivery system reforms improve value? The jury is still out. Medical Care 54(1):55-66,2016. [体系的文献レビュー]

○ [アメリカ・ペンシルバニア大学における] 2013~2015年の保険料を用いた経済的インセンティブは職場での体重減少を促進しなかった

Patel MS, et al: Premium-based financial incentives did not promote workplace weight loss in a 2013-2015 study. Health Affairs 35(1):71-79,2016. [量的研究]

○ [アメリカの一地方で] インターネットのポータルサイトにアクセスして自己の診療情報をチェックする患者はプライマリケア[診療所]受診が多いか?

Leveille SG, et al: Do patients who access clinical information on patient internet portals have more primary care visits? Medical Care 54(1):17-23,2016. [量的研究]

142号(2016.5.1)(通算122回, 2016年分その2:6論文)

○ [アメリカにおいて] 軽症疾患での「コンビニクリニック」受診は医療利用と医療費を増加させる

Ashwood JS, et al: Retail clinic visits for low-acuity conditions increase utilization and spending. Health Affairs 35(3):449-455,2016. [量的研究]

○ 何がアメリカ国民の医療制度への不満足をもたらしているのかを理解する: 国際比較

Hero JO, et al: Understanding what makes Americans dissatisfied with their health care system: An international comparison. Health Affairs 35(3):502-509,2016. [国際比較研究]

○ [イギリスにおける] 高齢者の独居が手術の費用と便益に与え影響

Turner AJ, et al: The effect of living alone on the costs and benefits of surgery amongst older people. Social Science & Medicine 150:95-103,2016. [量的研究]

○ 将来の費用、固定された医療予算、及び費用効果分析における意思決定ルール

Baal P, et al: Future costs, fixed healthcare budgets, and the decision rules of cost-effectiveness analysis. Health Economics 25(2):237-248,2016. [理論研究]

○ 保健医療科学における質的研究の質: ベテラン評価者による58の評価ガイドラインに示

された一般的な基準の分析

Santiago-Delefosse M, et al: Quality of qualitative research in the health sciences: Analysis of the common criteria present in 58 assessment guidelines by expert users. *Social Science & Medicine* 148:142-151,2016. [質的研究]

○日本語版 Decison Regret Scale [患者の意思決定後の後悔尺度] の妥当性

Tanno Kiyomi (丹野清美), et al: Validation of a Japanese Version of the Decision Regret Scale. *Journal of Nursing Measurement* 24 (1):E44-54,2016. [測定尺度の開発研究]

143号(2016.6.1)(通算123回. 2016年分その3:5論文)

○メディケイド疾病管理プログラムの医療費に与える影響: [アメリカ・] ジョージア州での自然実験のエビデンス

Krunker K: Effects of Medicaid disease management programs on medical expenditures: Evidence from experiment in Georgia. *Journal of Health Economics* 46:52-69,2016. [量的研究]

○利害関係者による疾病管理プログラムの受け入れの違いを説明する: オーストリアとドイツにおける政策実施の比較分析

Schang L, et al: Explaining differences in stakeholder take up of disease management programmes: A comparative analysis of policy implementation in Austria and Germany. *Health Policy* 120(3):281-292,2016. [2国間比較研究・内容分析]

○「それは〇〇による」: [アメリカの] ナーシングホーム入居者がケアの好みについての気持ちをなぜ変えるかの理由

Heid AR, et al: "It depends": Reasons why nursing home residents change their minds about care preferences. *Gerontologist* 56(2):243-255,2016. [質的研究(内容分析)]

○[アメリカの] ナーシングホームの5つ星評価: それは入居者と家族のケアについての見方との比較

Williams A, et al: The nursing home five star rating: How does it compare to resident and family view of care. *Gerontologist* 56(2):234-242,2016. [量的研究]

○行動変容かエンパワーメントか: 健康増進というゴールの倫理的検討

Tengland P-A: Behavior change of empowerment: On the ethics of health-promotion goals. *Health Care Analysis* 24(1):24-46,2016 [理論研究]

144号(2016.7.1)(通算124回. 2016年分その4:5論文)

○OECD加盟国における医療政策の効率: 国際比較の体系的文献レビューとメタアナリシス

Varabyova Y, et al: The efficiency of health care production in OECD countries: A systematic review and meta-analysis of cross-country comparisons. *Health Policy* 120(3):252-263,2016. [国際比較の文献レビュー]

○医療制度の分類: 我々はさらに先へ進めるか?

Toth F: Classification of healthcare systems: Can we go further? *health Policy* 120(5):535-543,2016. [理論研究・国際比較]

○[日本を含む] 先進7か国における健康状態の違いによる高医療費[高額患者自己負担]

の頻度

Baird KE: The incidence of high medical expenses by health status in seven developed countries. Health Policy 120(1):26-34,2016. [国際比較研究・量的研究]

○ドイツ、オランダおよびイングランドにおける病院合併の規制：経験と課題

Schmid A, et al: Hospital merger control in Germany, the Netherlands and England: Experiences and challenges. Health Policy 120(1):16-25,2016. [政策研究・国際比較研究]

○健康アウトカムの変動：[アメリカ各州の] 2000-2009 年の社会サービス費、公衆衛生費および医療費の役割

Bradley EH, et al: Variation in health outcomes: The role of spending on social services, public health, and health care, 2000-09. Health Affairs 35(5):760-768,2016. [量的研究・国際比較]

145号(2016.8.1)(通算 125 回. 2016 年分その 5:5 論文)

○ [アメリカでの] 経口抗がん剤の上市後の価格上昇は競争圧力の欠如を示唆している

Bennette CS, et al: Steady increase in prices for oral anticancer drugs after market launch suggests a lack of competitive pressure. Health Affairs 35(5):805-812, 2016. [政策研究]

○抗がん剤は9か国で正の価値を生み出しているが、アメリカは1ドル当たりの健康価値増加面で遅れをとっている

Salas-Vega S, et al: Cancer drugs provide positive value in nine countries, but the United States lags in health gains per dollar spent. Health Affairs 35(5):813-823,2016. [国際比較]

○ [アメリカ・カリフォルニア州における在宅・] 地域での [メディケイドの] 長期ケアサービス開始後の医療費：地域対ナーシングホーム

Newcomer RJ, et al: Health care expenditures after initiating long-term services and supports in the community versus in a nursing facility. Medical Care 54(3):221-228,2016. [量的研究]

○小児科医の供給が小児の健康アウトカムに与える影響：日本での縦断データによるエビデンス

Sakai R, et al: The impact of pediatrician supply on child health outcomes: Longitudinal evidence from Japan. Health Services Research 51(2):530-549,2016. [量的研究]

○オランダでの 2015 年長期ケア [制度] 改革の政策と政治

Maarse JAM, et al: The policy and politics of the 2015 long-term care reform in the Netherlands. Health Policy 120(3):241-245,2016. [政策研究]

146号(2016.9.1)(通算 126 回. 2016 年分その 6:6 論文)

<韓国の医療 (4 論文) >

○韓国の価格・販売量協定の下での医薬品の予測販売量と実際の販売量との差に影響する諸要因

Park S-Y, et al: Factors influencing the difference between forecasted and actual drug sales volume under price-volume agreement in South Korea. Health Policy 120(8):867-874, 2016. [量的研究]

○韓国で医薬品の償還に医療技術評価を用いた 8 年間の経験

Bae E-Y, et al: Eight-year experience of using HTA in drug reimbursement: Korea. Health Policy

120(6):612-620,2016. [医療政策研究]

○韓国における処方箋なしでも購入可能な配合薬の健康保険給付リストからの除外が医薬品費に与えた影響

Park CM, et al: Effects of delisting nonprescription combination drugs on health insurance expenditures for pharmaceuticals in Korea. Health Policy 120(6):590-595,2016. [医療政策研究]

○韓国の国民皆保険制度における国民の医療制度のパフォーマンスへの満足度

Park K, et al: Public satisfaction with the healthcare system performance in South Korea: Universal healthcare system. Health Policy 120(6):621-629,2016. [量的研究]

<その他(2論文)>

○医療におけるリーン介入：それは現実に機能するのか？体系的文献レビュー

Moraros J, et al: Lean intervention in healthcare: Do they actually work? A systematic literature review. International Journal for Quality in Health Care 28(2):150-165,2016. [文献レビュー]

○【アメリカにおいて】フォーマルな雇用はインフォーマルなケア提供を減らすか？

HE D, et al: Does formal employment reduce informal caregiving? Health Economics 25(7):829-843,2016. [量的研究]

147号(2016.10.1)(通算127回. 2016年分その7:7論文)

<包括的(プライマリ)ケア・サービス統合(3論文)>

○複数の慢性疾患またはフレイルを有する患者への包括的ケアプログラムの効果:体系的文献レビュー

Hopman P, et al: Effectiveness of comprehensive care programs for patients with multiple chronic conditions or frailty: A systematic literature review. Health Policy 120(7):818-832,2016. [文献レビュー]

○【アメリカにおける】包括的プライマリケアモデル事業開始後2年間の費用と質

Two-year cost and quality in the comprehensive primary care initiative. NEJM 374(24):2345-2355,2016. [量的研究]

○【保健医療】サービスの統合はユニバーサル・ヘルス・カバリッジ[普遍主義的医療制度]の役に立つか？国際的エビデンス

Le G, et al: Can service integration work for universal health coverage? Evidence from around the globe. Health Policy 120(4):406-419,2016. [文献レビュー]

<ドイツの医療経済研究(4論文)>

○ドイツにおける病院医療の質の公開の影響—二次的データに基づく前後比較研究

Kraska RJ, et al: Impact of public reporting on the quality of hospital care in Germany: A controlled before-after analysis based on secondary data. Health Policy 120(7):770-779,2016. [量的研究]

○ドイツにおける慢性疾患患者の医療差し控え—15,565人の横断面調査の結果

Roettger J, et al: Forgone care among chronically ill patients in Germany - Results from a cross-sectional survey with 15,565 individuals. Health Policy 120(2):170-178,2016. [量的研究]

○【医師の開業】地域【選択】要因がドイツにおける診療所医師【密度】の地域的バラツキに与える要因の寄与

Vogt V: The contribution of locational factors to regional variations in office-based physicians in

Germany. Health Policy 120 (2):198-204,2016. [量的研究]

○ドイツにおける医療費の地域的バラツキの決定要因

Goepffarth D, et al: Determinants of regional variation in health expenditures in Germany. Health Economics 25 (7):801-815,2016. [量的研究]

148号(2016.11.1)(通算128回. 2016年分その8:7論文+α)

○アメリカにおける処方薬の高コストー起源と改革の見通し

Kesselheim AS, et al: The high cost of prescription drugs in the United States - Origins and prospects for reform. JAMA 316 (8):858-871,2016 [文献レビュー・政策研究]

○【アメリカでは】処方薬費用の低成長の時代は終わったのか？

Aitken M, et al: Has the era of slow growth for prescription drug spending ended? Health Affairs 35 (9):1595-1603,2016. [量的研究]

○病院はどのように価格変化に対応するか？ノルウェイからのエビデンス

Januleviciute J, et al: How do hospitals respond to price changes? Evidence from Norway. Health Economics 25 (5):620-636,2016. [量的研究]

参考○「病院はノルウェイの2006-2013年のDRG重み付けの変化に反応したか？」

Melberg HO, et al: Did hospitals respond to changes in weights of Diagnosis Related Group in Norway between 2006 and 2013? Health Affairs 120 (9):992-1000,2016. [量的研究]

○【アメリカでの】電子医療記録利用は病院の財務業績を改善するか？パネルデータから得られたエビデンス

Collum TH, et al: Does electronic health record use improve hospital performance? Evidence from panel data. Health Care Management Review 41 (3):267-274,2016. [量的研究]

○【アメリカにおける】価格透明化ツールの提供と外来医療費との関連

Desai S, et al: Association between availability of a price transparency tool and outpatient spending. JAMA 315 (17):1874-1881,2016. [量的研究]

○医療貯蓄口座：医療における効率、公平および経済的保護に与える影響を評価する

Wouters OJ, et al: Medical savings accounts: Assessing their impact on efficiency, equity and financial protection in health care. Health Economics, Policy and Law 11 (3):321-335,2016. [国際比較研究・文献レビュー]

○経路依存性と社会化医療の政治学

Brady D, et al: Path dependency and the politics of socialized health care. Journal of Health Politics, Policy and Law 41 (3):355-392,2016. [理論・量的研究]

149号(2016.12.11)(通算129回. 2016年分その9:7論文)

○統合ケア：理論から実践へ

Stokes J, et al: Integrated care: Theory to practice. Journal of Health Services Research & Policy 21 (4):282-285,2016. [評論・文献レビュー]

○ドイツ慢性閉塞性肺疾患管理プログラム(COPD・DMP)ー大規模集団ベースのコホート調査

Achelrod D, et al: Costs and outcomes of the German disease management programme (DMP) for

chronic obstructive pulmonary disease (COPD) - a large population-based cohort study. Health Policy 120(9):1029-1039,2016. [量的研究]

○韓国の医療扶助受給者に導入された外来受診時自己負担の影響：5年間の時系列研究

Yoo K-B, et al: Impact of co-payment for outpatient utilization among Medical Aid beneficiaries in Korea: A 5-year series study. Health Policy 120(8):960-966,2016. [量的研究]

○【アメリカの】メディケイドにおける自己負担：仮定、エビデンスと今後の方向

Powell V, et al: Cost sharing in Medicaid: Assumptions, evidence, and future directions. Medical Care Research and Review 73(4):383-409,2016. [文献レビュー]

○低・中・高所得のアメリカ人の1963-2012年の医療費

Dickman SL, et al: Health spending for low-, middle-, and high-income Americans, 1963-2012. Health Affairs 35(7):1189-1196,2016. [量的研究]

○【アメリカでの】医師診療の統合の進行のメディケイドへの【望ましい】副反応

Richards MR, et al: The growing integration of physician practices with a Medicaid side effect. Medical Care 54(7):714-718,2016. [量的研究]

○【EUにおける】医療部門の雇用増加は労働生産性の改善を求める

Hofmarcher MM, et al: Health sector employment growth calls for improvements in labor productivity. Health Policy 120(8):894-902,2016. [量的研究]

「二木立の医療経済・政策学関連ニューズレター」2016年(138~149号)

「私の好きな名言・警句の紹介」2016年分 人名索引

注：カッコ内は「ニューズレター」の号数。各行ごとに「ニューズレター」掲載順。外国人は姓のみ(ただし例外あり。例：トム・クルーズ)。映画・テレビドラマ・芝居のセリフはその名称(「」表示)。カッコ内の(A=B)：B号で初めて紹介したもののA号での再掲。

あ行

オーデン,WH(138),長田弘(138),阿部豊(138),阿部彩子(138),安倍晋三(138),奥田愛基(139),大村智(139),江見康一(139=63),「愛少女ポリアンナ物語」(139=56),上田敏(141),伊東光晴(142),上野千鶴子(142,149),小木貞孝(143=108),アトキンソン,AB(143),石破茂(143),エンゲルス(143),内田樹(144,146),磯田道史(144),東信(145),井村雅代(145),アリ,M(145),大村文子(146),内田義彦(146),アントワヌ,J(146),赤川次郎(146),植草一秀(147),大野晋(147),大隈良典(148),ウォーラーステイン,E(149)

か行

黒澤明(138=72),柿崎明仁(138),権丈善一(140),黒田博樹(140),ガロ,C(140),郷ひろみ(141),ガルブレイス,JK(142),加賀乙彦(143=108),今野浩(143),五代友厚(143),石川明人(143),クルーグマン,P(145=62),金田一秀穂(144),小泉純一郎(145),小林幸子(145),片岡仁左衛門(146),加藤周一(146),桂歌丸(146),近藤康太郎(148),クリントン,H(148),加藤秀俊(149)

さ行

齋藤實(138),鈴木哲也(138,139=138),志位和夫(139),ジェームズ三木(139),下重暁子(142),ソ教連特別委員会「中間報告」(144),スーチー(144),末盛千枝子(146),佐藤優(148),杉山正博(148),バーンスタイン,C(148),佐藤俊樹(149),佐和隆光(149),サンダース,B(149)

た行

高橋桃子(138),田部井淳子(138),サブ라마ニアン,G(139),玉田慎二(140),ステーブ,S(141),トッド,E(141,148),津山直一(142),建島哲(142),テッド,J(142),田中角栄(142),利根川進(143=92),ドール,B(144),田中滋(145),高木安雄(145),高橋みなみ(145),豊田泰光(146,147),竹内伸一(146),「淡麗プラチナダブル」(147),外山滋比古(147,149),ディラン,B(148,149)

な行

野矢茂樹(139),中曽根康弘(140),額賀福祉郎(140),「二木ゼミ・愛の教育手帳」(143),沼野充義(144),中村元(147)

は行

日野秀逸(138=60),白鵬(138),裴英洙(はい・えいしゅ)(139),張本勲(140),美輪明宏(140),ペレス,F(141),ファクラー,M(142),福沢諭吉(142),藤沢久美(143),伏見憲明(144),平原卓(145),帯木蓬生(ははきぎ・ほうせい)(146),服部茂幸(147),ロダム,H(148),日野原重明(148),浜六郎(149=31)

ま行

村上春樹(138,139,141),マルクス(138=60),森村誠一(142),藻谷浩介(143),牧原出(144),森原秀樹(144),茂木建一郎(145),マッカート,M(146),森田朗(146),ムヒカ,H(147),松田丈志

(147),森岡正博(149=48),南谷修(149)

や行

吉永泰之(138),吉村萬壺(138),山口俊晴(139),与次郎(139),吉見俊哉(142),康永秀生(145),吉川英治(149),湯浅学(149)

ら行

レナー,D(141),ロス,A(143),レーガン(144),ラスチスカ,F(149)

わ行

若松栄輔(141),和田秀樹(141),鷺田清一(144),ワインバーグ,S(145)